

店選びから、注文の仕方、会話術まで。どうすれば女性を心地よくさせられるのか。

恋心が一瞬に冷める!?! ワインマナーの勘違い

特集 恋愛のない
人生なんて!



友田 晶子さん
ワインコーディネーター。

斎藤 美恵さん
大手パソコンメーカー勤務 三〇歳、仮名。

今井 章子さん
不動産会社勤務 二九歳。

渡辺 香織さん
東京都内大病院勤務 二七歳、仮名。

近野 仁姿さん
埼玉県川口市 フラッスリー煮屋 のソムリエ。

近頃流行りのワインだが、どうも日本酒やビール、ウイスキーとは勝手が違う。聞きかじりのワインマナーに縛られるばかりに、滑稽なことになってきているようだ。あなたは、若い女性とワインを飲みに行くとき、自分の行動に自信が持てるか。ワインコーディネーターの友田晶子さんを中心にざっくばらんに語ってもらった。おじさまたちのワインマナーは、どこが変わで、どんなところが嫌われるのか。そして、「恋に落ちるかもしれない」極めつきのエスコート術とは。普段、男性の前では明かさない、若い女性の本音を収録した。

おじさまには、カッコよく
エスコートされたい

友田 最近のワイン・ブームで、これまでワインに馴染みの薄かった方が飲むようになりましたね。ワインコーディネーターという職業柄、私たちは嬉しいけれど、皆さんの上司、あるいは総称して「おじさま」たちはいかがですか。楽しんで飲んでいらっしゃるんですか。

斎藤 本当によく行くようになりましてね。ただ、問題もありまして……。

部長が、会社の近くの素敵なイタリアンレストランを、一〇人ぐらいの管理職同士の飲み会に使っちゃったんで

す。盛り上がって騒いでたんだろなって、その場の雰囲気や頭に浮かぶから、恥ずかしくて……。もう行けないですよ。美味しいし、好きな店だったんですけど。

友田 おじさまたちは、団体のほうが怖くないんでしょう。でもある意味で、そういう店へ行こうと思うこと自体、昔では考えられませんか。やはり、意識が変わってきたのでしょうか？ 近野さんは、お店をやっているらしいですが、実際のところ、どうですか？

近野 男性の団体客というのはいらっしやいます。接待とか、会合とかで利用されるようです。事前にお店側に相談してもらえれば、もつとうまくいく

と思います。むしろ怖いのは、ワインにマニアックな男性が二、三人で来られるときです。

渡辺 そういう方、多いんですか？

近野 減多にいないんですけど。妙な雰囲気になってしまいます。

今井 そうすると、おじさまは無理にでも、女の子を誘わなきゃいけない。

近野 そのほうが自然に見えますね。

斎藤 渡辺さんは病院に勤めていらっしやいますか、お医者さまには、ワイン好きな方、多いんじゃないんですか？

今井 あ、なんか、たくさんいそう。

渡辺 飲みに連れて行ってくださるワイン好きな先生はいます。お店の選び

方として、居酒屋よりも、ワインのあ

るレストランのほうが嬉しいですし。

友田 いいワイン飲んでるんでしょねえ。

今井 私も連れて行って！（笑）

近野 一般的に言っても、ワインを出すような店のほうが雰囲気が出て。

渡辺 お洒落な感じがしますね。

今井 ガード下の焼き鳥屋に行くよりは（笑）。

斎藤 ビールや焼酎を飲むような場所だと、酔っぱらって肩に手を乗せたり

してくる、不快な上司がいますから。

友田 えっ、今どき、まだいるんですか。そんな上司。珍しい。

斎藤 やっぱ、まだいるんです。お



酒の席なら何でも許されると思っている人が。ワイン飲むような席なら、そういう不快なことが、なくなるかなって、期待はありますね。

近野 ちよつと、フォーマルな感じになりますからね。

斎藤 居酒屋なんて誰とでも行けるじゃないですか。でも、上司から「イタリア料理でも食べに行こうか?」とか言われると、やっぱり期待しちゃう。ちよつと高いものでも食べようかなとおごつてもらおうのが前提ですが。

今井 要するに、お金の問題(笑)。

友田 でも、それって正直なところ、やはりありますよね。女の子同士だと「今日はこのくらいで……」と思って、余裕のある男性が一緒なら、ワンランク上のワインが飲める、という。斎藤 一緒に飲んでいて、嫌みがなく、自然な会話ができる方だったら、またご一緒したいと思いますね。

友田 「この前はこれを飲んだから、今日はあれを飲んでみようか」と(笑)。いいですよえ。

渡辺 もう一回といわず、二回でも三回でも(笑)。

友田 具体的に素敵なおじさまに連れて行ってもらいたいお店とか、ありますか。

渡辺 一回行って見たかった所かな。例えば、恵比寿ガーデンプレイスにある「タイユバン・ロブション」とか。

今井 あー、いいですね。

近野 若い男の子と行くと、分不相応の感じがするけど、おじさまとならないわ。

斎藤 「ウエスティン・ホテル」も女の子に人気ありますよね。

友田 結局、お金はなんとか払えても、格式が高くて、女同士じゃ、なかなか行けないような所ですか? 別に料亭とか、懐石でもいいんですけど——ちゃんとした人に、連れて行ってもらいたいですね。

近野 カッコよくエスコートされたい。

今井 大勢でワハハという感じじゃなく、しつとりと語り合う。

斎藤 そういうときにスマートに勧めてくれるとね。「このワイン、美味しいよ」なんて。

今井 そこがおじさまの勝負どころ、ですね(笑)。

尊敬できる上司との食事はすごく楽しい

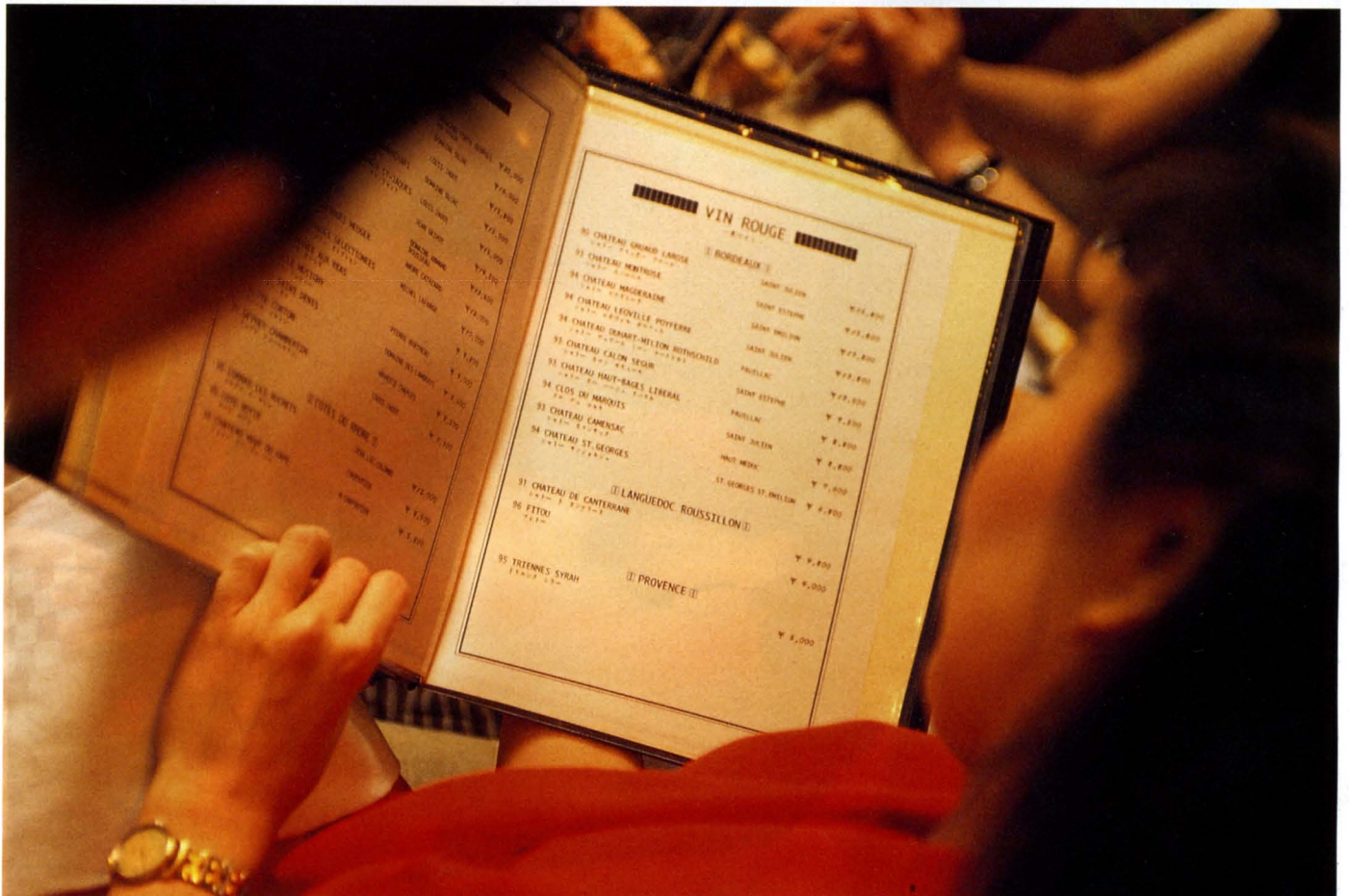
友田 皆さん、仕事の延長で飲みに行くこともあると思いますけれど、ホントは、好きな人とツーショットで飲みたいでしょう。

今井 そうそう。ホントはね。

斎藤 でも、恋愛とまでいかななくても、多少「いいな」と思ってる上司と飲んだりするのは楽しいですよ。

今井 仕事上でも尊敬できる上司なら、食事に行くのもたしかに楽しい。

友田 逆に、ワインを飲むことによつ



て、今まであんまり意識してなかった上司が急に素敵に見えることってありますか？

渡辺 ない。それは、全然ない。

(一同、深く頷く)

齋藤 最初から好感を持っていた方ではないと、ワインで相乗効果、というのではないです。

友田 ワインで上司の得点は上がらないにしても、誘われる側の女の子としては、ワインのあるお店だと、やはり行きやすい？

今井 女の子としては行きやすいです。

友田 私、ワインの勉強でフランスにいたことがあるんですが、そこでは、カップルの気持ちが先にあって、その次にワインがくるんです。愛し合っている二人が美味しものを食べたたり、ワインを飲んだりして、一緒にその時間を分かち合う、という感じでしょう。ワインはそのときの脇役なんです。でも、日本では順序が逆で、ワインで何とかしよう、ワインで釣ろう、としている気がするんです。どう思います？

渡辺 なんか、底の浅さが見えちゃいますよね。

今井 「何とかなるかも……」とか、思ってるんでしょうかねえ。あるいはワインを飲んでいる自分に酔いたい、とか(笑)。

友田 日本ではワインとなると、男性はどうしても「このワインがなんとかなって、語ってみたりしますよね。」



今井 日本人は知識から入っちゃいますから。お勉強が好きですよ。英語を習ったときみたいに、取りあえず、文法から詰め込んだりしていい。

齋藤 知識を自慢気に語るんじゃないで、教えてくれる人はいいいですけど。

友田 セっかく二人で飲みに行っても、ワインのことばかり話されると……。まあ、勉強したんでしょうけど、あれはよくない。

近野 ワインはあくまで会話のきっかけであってほしいですね。

友田 逆に、知識がない人に「ワインのことはわからないけど、でも、君と飲みたいから、行こうよ」って誘われる。これですね。

齋藤 その誘い方は素敵ですね。

ワインを注文するときは味の好みを聞いてほしい

友田 上司と飲みに行った場合、ワインを選ぶのは誰なんですか？

齋藤 上司には「俺、わかんないから、選んでよ」と言われますね。私たちもわからないから、結局、店の人に聞いたりして。

渡辺 そういうときに、ワインリストを見て、カッコ良く注文してくれたら、素晴らしいと思いますけど。

齋藤 うちの部で、ワインリストを見て、さっと選べるような男性はいないです。はつきり言って(笑)。

他の部署に、若い人でワインに詳しい人が稀にいたりしますけど。でも、嫌な奴だったりします(笑)。

友田 リストを見せてくれない人とかいるでしょう。勝手に決められるのも嫌ですよ。

近野 「辛めがいい？」とか、「甘口にしようか」とか、ちゃんと聞いてくれないと。

今井 リストを見せて高いものを選ばれると困るからじゃないの？

友田 そうそう。たぶん、それが心配なんですよ。で、安いものを選んでるのを見破られたくないから、勝手に注文しちゃう。

齋藤 「おごってもらうのに値段の高いのは選べない」とか、「いちばん安いのも失礼に当たるんじゃないか」と

か、こっちも気を使っているのにね。

今井 オジサンは人に聞けないから、余計、威張っちゃうんでしょう(笑)。

友田 人にモノを聞くことができない世代ですから。

齋藤 「ワインなんか嫌いだ」と卑屈になる人もいる。

渡辺 威張るか卑屈になるか、どっちか(笑)。

友田 そんな文化で育ってないですものね、おじさまは。居酒屋のほうが気が楽でしょう。それに、ワインといえば、女性のほうが詳しいですからね。私が講師をしているスクールに来るのも、八割が女性です。おじさまたちは女性に太刀打ちできなくて、困っているんじゃないですか。

近野 健康にいいから、飲まなきゃいけないんだ、と悩んじゃう。

友田 ワインは薬ではないのだから、健康のために飲むというのは、ちょっと……。

齋藤 まるで、養命酒みたい。

友田 そう、まさに養命酒。ワインのせいで、養命酒の売り上げが減ったという噂もあるらしいし。

もつとナチュラルに、例えば、地方特産のお漬物とか、そういうものを飲みながら飲んだりしたほうがいいと思いますよ。いろんなことを考えたり、恐れたりせずに、楽しんでもらいたいですね。田崎真也さんがおっしゃっていたけれど、「ワインというと、日本

るより、ずっといい(笑)。

今井 風向きの加減を配慮してくれればいいですよ。むしろ、女性に煙が行かないようにって、手で扇いだりされると、すごく傷つきます。

渡辺 そんな人、最低。

斎藤 あと、食べるときに音を立てられると嫌ですね。

今井 そうよね。食事が一気に美味しくなくなっちゃう。

斎藤 雰囲気壊してほしくないんですよね。

友田 ワインだけじゃなくて、一般的なことでですけど、常識がわかっていないオジサンが非常に多いですね。電車に乗るときに、ガーツとぶつかってきたり。

斎藤 「ごめんなさい」とか「すいません」とか言わないしね。

近野 ぶつかって、「あ、失礼」なんてサラツと言えり男性がいたらカッコいいですよ。

友田 ワインでも同じですよ。謙虚になれ」と、言いたい。

見栄を張らず、恥を恐れない人が好き

友田 じゃあ逆に、おじさまを見直しちゃうときは？ どんな人が魅力的？
斎藤 話題が豊富だな、と感心したときかな。

今井 経験で培われた魅力とか。頼り甲斐とか、ね。それに、清潔感のある

人もカッコいい。

斎藤 いつもはスーツ姿しか見ていないくて、カジュアルフライデーや休みの日に、白いTシャツや麻のジャケットを着てきて、それがすごく素敵だったりますと……。

友田 意外な一面に触れたときね。少年のような、好奇心旺盛なところとか。

斎藤 あと、恥をかいた体験とか失敗談をサラリと話せる人も好きです。

斎藤 もちろんなりますよ。若い人よりも経験が豊富だし、魅力的ですよ。

ただ、自分の周りに限定すると、見つかりませんけれど。

今井 男を捨てているような人は、好きになりません。「俺は、もうオヤジだから」って言われちゃうと、もう対象外になってしまいます。

渡辺 四、五十代の男性だと、あまり話さない人のほうに、かえって興味を



友田晶子

1963年、福井県生まれ。ワインコーディネーター、利き酒師。90年ワインに関するアドバイスを会社を設立。専門学校やカルチャーセンターで、ワイン、チーズ、日本酒、テーブルマナーの講師を務める。第2回ワインアドヴァイザー全国選手権大会3位。著書に「スーパーで買えるワインの本」(マガジンハウス)、「女とお酒のいい関係」(小学館)がある。

渡辺 失敗を恐れない、恥を恐れない人っていいですよ。ただ、見栄を張ったがゆえに失敗する人は、駄目です。

わからないことは、わからないって言うてくれる方のほうがいいです。

斎藤 そこが、好きになれるかどうかの分かれ道かもしれない。素直になれればいいですよ。

友田 皆さん、おじさまも恋愛対象になるの？

惹かれたりして。

斎藤 「うん、うん」と、人の話を聞いているような……。器が大きいような気がする。

友田 先にサツと帰っちゃうような人がもてたりする。「みんな、楽しんでね」と言い残して去っていく。

今井 支払いがスマートな人もいいですね。

斎藤 トイレにちょっと立った間に、

支払いが済んでいた。

友田 女性としては、男性にバシッと仕切ってもらいたいというか、エスコートされたい、という願望はありますからね。

今井 だけど期待はしていない(笑)。

友田 結局、ワインの知識の問題じゃなくて、文句言わないで、健康的に食べて、美味しそうに飲む。マナーも最低限のことだけ守ってくれば良いと思う。レストランでエビの料理をナイフとフォークで、キュッキュツて、器用に皮を取って食べる男の人がいたの。それを見て、「男なら、手で掴んで、豪快にガブツて食べる」って思ったわあつ、だんだん自分の好みになってきた(笑)。

斎藤 スマートではないんだけど、男っぽさに惹かれるところがありますね。仕事ができる人には、そういうタイプが多いような気がします。

近野 一緒に食事に行くときに、あえてワインでなければならぬ理由もないのよね。

今井 そうそう、おじさまが得意な分野に連れてってくればいいわけで。

斎藤 私たちだって、「日本酒飲みに行かない？」と言われれば、「はい、行きます」って言うのね(笑)。

渡辺 「美味しい生ビールを飲みに行かない？」でもいいですよ。場所はどこでも、楽しいひとときを過ごすことが一番ですから。

が